



業界の状況

- …好転
- …やや好転
- …不変
- …やや悪化
- …悪化

	なし
--	----

	食品団地	12月度の売上は順調であった。高知県内・県外共に増加(売上)した。食品用原材料の値上がりが続いており、また4月から電力の値上げ要請がある等、経営環境は厳しいものがある。新型コロナウイルスの影響で外食用食材の需要が減少している。
	青果卸売	コロナ等により巣籠り状態が増えたせいか、スーパー、量販店の売上は増加傾向のため、売上高も増加した。前年対比116%アップ。新型コロナウイルスの影響としては、従業員等にも感染者、濃厚接触者が出たりして、社内業務にも影響が出始めた。
	電気機械器具小売	全商品平均で前年比103%。省エネタイプエアコン好調。材料費の高騰により利益率が悪化した。
	商店街(四万十市)	毎年12月の通行量調査を各商店街で2日間執行。忘年会などの予約は少人数グループが多かったようだ。2次会への流れも未だ少ない状態。
	旅館・ホテル	行政各所が実施するキャンペーンの後押しにより、11月、12月の宿泊人数は2019年と同水準まで回復してきたが、2023年1月以降の動きは鈍い。全国旅行支援が2023年も実施されることになったが、コロナ感染者の増加もあり、先々の見通しは立たない。
	クリーニング	景気はホテルリネンなどで回復してきたが、宴会需要やホーム全般も依然厳しく限定的。料金改定により売上増、収益状況はわずかに好転した。リモートワークなどの行動変容が定着。節約志向が強まる可能性あり。

	テントシート	コロナ禍ではあるが、各種イベント開催がされるようになり、イベント関連主力の事業所も活気が戻りつつある。各種原材料の値上げが続いており、販売価格への転嫁が大変な状況。
	製材	一般的に荷動きは鈍く、製材価格の先安感が強まっている。
	製紙(家庭紙)	感染症の影響以上に、原材料・エネルギー等の高騰が経営を圧迫した1年となった。年始早々に大幅な価格転嫁を打ち出している大手家庭紙メーカーに期待している。
	製紙(手すき和紙)	新型コロナウイルスの第8波や原材料の高騰・円安など一向に良い兆しが見えず、厳しい状態が続いており、先行きはわからない。なかなかコロナ前の状態には戻らない。売上の鈍い状態が続いている。
	コンクリート製品	出荷量が増加する時期であるが、令和4年12月分は前年同月より減少した。
	刃物製造	受注残の品が、備品等の入荷でまとまって出荷でき、昨年より大幅に売上を伸ばすことができた。また、3年ぶりに独自のイベントも開催し、小売の売上も増え好結果である。
	船舶製造	年末に従業員の感染者が若干増えた。
	珊瑚装飾品製造	12月の取引額は前年同月比65%と、依然として低調であり、回復の兆しは見えない。
	卸団地	・昨年の年末商戦とくらべると、コロナ規制がないため回復傾向だが、公の宴席は少なく厳しい状況が続いている。新型コロナウイルスと原材料高騰のため、経営が圧迫されている。また、新型コロナウイルスの影響では売上減、従業員の欠員(感染又は濃厚接触者として)、コロナの増加により小売店舗への来店が減っている等の影響も出ており、今後も売上減少が続くと思われる。

	生鮮魚介卸売	商品仕入れ価格が上昇し売上は伸びているが収益にはつながっていない。カツオの入荷が減少し、高値になっている。まだまだ厳しい状態。
	各種小売(土佐市)	年末に新型コロナウイルス感染者数の増加に伴い、キャンセルが増えたり、人の出が少なくなったり… なかなか厳しい年末となった。来年こそは落ち着いてくれたら… いつまで続くのか… 来年に期待するというよりも心配の声が多かった。
	中古自動車小売	11月後半から販売台数が前年同月より減少傾向にあり、買替需要が低迷している。一部の車種が高値を維持はしているものの、相場全体が落ち着いているので、仕入れしやすい環境ではあるが、問合せや注文数が少ない。年度末に向けての在庫確保等繁忙期に備えている。
	商店街(高知市)	中央公園地下駐車場 売上前年比:104.8% 利用台数前年比:106.9%。16日から25日の間、中央公園で開催された「クリスマスマーケット」は若者やファミリー層で賑わった。反面、コロナ感染の拡大で忘年会の中止が目立った。
	旅行業	組合・全旅クーポン総合計の前年度同月対比73%。全国旅行支援が1月以降も開始されているが、各組合員の顧客単価、売上は増加しておらず、顧客への割引手続き、全国旅行支援事務局への精算手続きが困難を極めている。
IT事業	先月に続き、大きな変化は感じられず、人材不足が続いている。開発要員もそうだが、特にマネージメントができる人員が足りてないと思われる。	

	酒類製造	昨年同期はコロナ禍の状況からやや持ち直したものの、その後値上げ、飲酒量の減少により出荷量の回復には至っていない。
	木製品素材生産	丸太価格は全体に値下がりしてきたが、前月からは横ばい状況となっている。長級(3m・4m)によって差があり、特にヒノキ4mの注文が入ってきており、年明けにはヒノキ価格が少し上向くのではないかと期待している状況。入荷量は12月23日に高知市内周辺で大雪となり、一部山間部でも影響があったが、全体的には大きな影響は出ておらず、変わらない状況であり販売量は確保できている。新型コロナウイルス感染者が増加しており、現状木材価格への影響は少ないと思われるが、先行きはわからない。
	建具	公共工事、民間とも仕事量が少ない。ウッドショックがまだ続いている。新型コロナウイルスに関しては、現場の人、建具を作る人ともにコロナにかかった人が増えてきている。
	印刷	売上については同等、設備稼働率は低下。県内需要及び県外需要とも低調にて、先月までの若干の回復傾向は感じられなかった。
	生コンクリート製造	12月単月の出荷数量は、対前年比76.9%、4月からの累計は80.2%で地区的には前月及び前々月同様に高幡地区を除き全県下で減少傾向が続いている。
	機械団地	様々な原材料コストの上昇が見られるなか、電力需要の大きい事業所では電力料高騰分の価格転嫁がうまくいかず、収益を圧迫している。また、一部にコロナ禍による納期の遅れが継続している。新型コロナウイルスの影響に関しては、納期の遅れは改善しつつあるも、相変わらず納入時期が不明な一部資材がある。
	ガソリンスタンド	来年1月より補助金の上限を段階的に縮小することが決まった。毎月2円の縮小により5月には35円だった上限を25円まで縮小することが決まったが、12月22日現在15.6円の補助額となっており、上限25円を下回っているため仕切り・市況価格への大きな変動はない見込みである。コロナやインフルエンザの感染が拡大しており、規制のない正月を迎えた後の感染拡大が不安である。また、感染の拡大による販売数量の落ち込みが心配。
	商店街(安芸市)	年末恒例の歳末大売出しを実施。参加店舗の減少が気がかりである。
	飲食店	本月は業界の繁盛期だがコロナ感染者が増加、団体の消費は落ち込んだが県外客や個人消費は比較的好調だった。前年同月比と売上は同程度だが光熱費や仕入れ価格が高騰しているため収益は悪化、波動的な原材料の値上げに価格転嫁が追い付かない。コロナ禍以前の同月との比較では7、8割と依然厳しい。業態により経営環境に大きな差があり、収益にも反映されている。今後、業界の規模が縮小すると思われる。感染者数の減少に伴い集客数は回復基調だが長引くコロナ禍で業界は疲弊している。縮小した事業規模を回復させるために設備投資や雇用等の助成や補助が必要。
	一般土木建築工事	令和4年12月分の公共土木用生コン出荷量は、前月比100.0%、前年同月比74.9%。令和4年4月から令和4年12月計においては前年累計対比92.6%。12月の工事請負金額は前年当月比で87.0%、前年対比累計金額では87.7%。令和4年12月末時点の前年対比累計請負金額は、国:94.9%、高知県:同累計71.4%、市町村:同累計83.6%となっている。生コン出荷量、工事請負金額共に累計では落ち込んでいるが、災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事は継続している。生コンクリート単価については、引き続き値上げ交渉を行うことと共販率上昇に向けた取り組みを当組合としてもできることを行っていく。共販率の引き上げに苦慮している。1月1日契約分以降の生コンクリート価格引き上げについては、高知市内はようやく足並みがそろった感がある。その他の地区については、引き上げに理解を得ている。
電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比107.7%とほぼ前年並みとなった。	
一般貨物自動車運送	原油価格は若干落ち着いているが、円安等の影響、補助金の縮小により国内での軽油価格は高止まりしている。荷動きも鈍く、前年同等もしくは若干減少した様に感じられる。燃料だけでなくその他資材も高騰しており経営を圧迫している。新型コロナウイルスの影響で荷動きが悪く売上が伸びない。荷動きが戻らなければ収益が落ち、経営を圧迫する。	

	タクシー	実働1日1車当りの前年同月比営業収入:106.7%、輸送回数:103.1%、実働率は53.0%。前月以後情勢に変わらない。運転者不足に苦慮している。
--	-------------	--